ふるさと御所
文化財探訪

⌘其の二⌘

旧石器時代

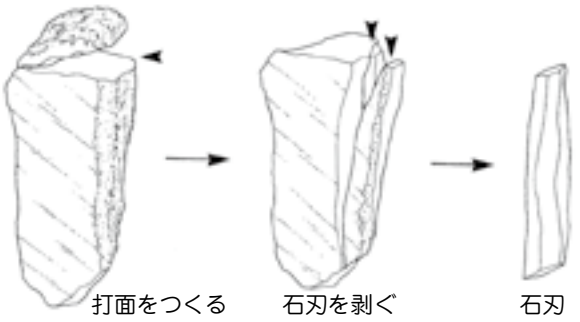
生涯学習課文化財係
☎内線６９６

ホモ・サピエンスは約20万年前にアフリカで誕生し、約10万年前にはホモ・サピエンス・ネアンデルターレンシスとして、また、約5～6万年前にはホモ・サピエンス・サピエンスとして二度にわたり世界へ広がっていきますが、現世人類はいずれも後者のホモ・サピエンス・サピエンスとされます。

氷期（いわゆる氷河時代）には海水面が数十メートルから百メートル以上低くなり、陸の面積が大幅に増えます。日本列島はほとんど大陸と陸続きとなっていましたが、ついに約3万年前、ウルム氷期（氷河時代の最後の段階）のうちに、後期旧石器文化を携えたホモ・サピエンス・サピエンスが日本列島にもやって来ました。

後期旧石器時代は石刃技法（図1）という石器製作法により特徴付けられます。これは石器の材料となる原石の端を計画的に打ち欠いて、打面（作業面と言ってよい）を最初に作った後に、連続的に規格的な剥片素材（石刃）を多量生産するという、非常に効率の良い方法でした。この石刃にさらに調整を加えることにより、後期旧石器時代を代表するナイフ形石器（図2）などが製作されます。

図1　石刃技法の工程（鎌木義昌「旧石器時代論」『岩波講座日本歴史』1、1975年から）



ナイフ形石器には刃を潰す加工が施されるので、その箇所に指を添えて実際にナイフのようにして用いられたこともあったようですが、獣を狩猟するためのヤリ先としての用途も重視されます。

近辺では、香芝市の二上山北麓に広がる旧石器時代の遺跡群が有名です。二上山ではサヌカイトと呼ばれる輝石安山岩の一種が産出します。サヌカイトはガラス質の岩石で、打ち欠くと貝殻状に割れて鋭い刃が出来るので、打製石器の材料として重宝されました。

近畿地方のナイフ形石器は、打面に対して横方向に長い剥片を取るという、世界的にも珍しい、瀬戸内技法と呼ばれる石刃技法の一種から作られます。これはサヌカイトの石質に、より適応した技法が模索されたことによるのでしょう。

残念ながら現在のところ、御所市内ではナイフ形石器をはじめとする旧石器時代の遺跡・遺物は知られていません。しかし、これは土石流の影響によるもので、きっと金剛・葛城山麓などの地中深くに埋もれているものと思っています。

図2　桜ヶ丘第１地点遺跡（香芝市関屋）出土　ナイフ形石器
香芝市二上山博物館　蔵

広報ごせ
2008. 6

編集後記

5月の連休、久しぶりに南アルプス南部へ分け入って来ました。静岡市中心部からバスを乗り継ぐこと4時間、その後徒歩で5時間。たどり着いた大井川源流地域は、製紙会社と電源開発の施設など人工物が散在する一方、周囲は恐ろしく深い山また山という不思議な環境。ただし交通の便が極めて悪いため、観光客や登山客の姿は全くなく、世間のゴールデンウィークの喧噪とは無縁の静寂の時間がそこにはありました。…(久)

赤石岳

犬・猫は正しく飼いましょう！　★散歩させるときは、必ず袋とシャベル等を持ち、フンの後始末をしましょう。